

銀杏学園通信

ぎんきょう

G I N K Y O



第41回 杏祭 (H29.10)

特集 SPECIAL FEATURE 「アカデミックスキルラボ」開設

NEWS & TOPICS

オープンキャンパス & チャレンジ熊保大開催
リハビリテーション学科合同就職説明会 他

ふれあいサロン

杏祭・サークル INFO

NO. 37
2018
JANUARY
www.kumamoto-hsu.ac.jp



「アカデミックスキルラボ」開設

ライティングセンターは、現在ではアメリカのほとんどの大学に設置されています。日本国内でも、大学生が日本語や英語で論理的な文章を書けないことが問題視され、米国の取組に習って、早稲田大学、東京大学、津田塾大学などを皮切りに、いくつかの大学に設置されてきました。



学長
崎元 達郎

本学における教育改革の議論の中で、生涯学習力を備えた「アクティブラーナー」を育てるべきであるという一つの方向が示されました。そのためには、読み、書き、要約し、発表する力、である「基本的リテラシー」、に加え「コミュニケーション力」、「課題探究力」が必要であります。

本年4月に設置しましたアカデミックスキルラボは、他大学のライティングセンターに相当しますが、ライティングにとどまらず、「基本的リテラシー」に相当する、ライティング、プレゼンテーション、PC活用能力（情報リテラシー）を全学的に強化する中心組織であります。

平成31年度からは、教養科目として、アカデミックスキル1、2、3の開講が計画されていますが、各学科の専門教育においても、これらの科目を受けて、「コミュニケーション力」、「課題探究力」を学生に獲得させるために、ラボと力を合わせていただきたいと思います。

ラボ開設の背景と考え方

私たちは将来の予測が困難な時代に生きているといわれています。グローバル化、少子高齢化といったキーワードで語られる社会の大きな変化の中で、大学教育そのものの質も問われています。中央教育審議会をはじめとした各種答申には、「新しい力」「学士力」「社会人力」といったキーワードがちりばめられています。これらのキーワードは、大学が育てるべき人物像を示唆しています。つまり、大学教育に対する社会の要請です。大学にとっては、「待ったなし」の改革を迫られていると言ってもいいでしょう。

本学の教育理念に立ち返ってみますと、その中に「人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成」、「豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成」という項目があります。アカデミックスキルラボは、これらの理念に軸足を置き、以下のような具体的な目的を持って活動しています。

- 学びに対する自律的姿勢を引き出す
- 状況に応じて経験や知識を再構築する力を養う
- 学部初期段階での指導に重点を置き、高等教育に対応する下地を作る

簡単に言いますと、学部初期段階で学生に自主的な学びの構えをつけてもらう、ということです。ラボは、そこからそれぞれの潜在的な能力を引き出し、専門へとつなげていく「そだち場」でもあります。そだち場では、学生の感情を揺さぶり、自発性を引き出し、それから自



由に書き、ディスカッションし、コメントをもらいながら気づきを得る、そして伝える文章を意識するプロセスを重視しています。このプロセスの核となるのが対話型の指導であり、「チュートリアル」と言われる指導方法です。対話型指導を円滑に進める方策として協同学習を採用し、適宜、一对一の指導とグループ指導を組み合わせています。

学生指導員の活用

指導の効果を上げ、ラボが「そだち場」であるためには、さらに「仕掛け」があります。それは、「共に学ぶ経験者」としての学生指導員の養成と活用です。学生指導員の役割については、以下のように規定しています。

- ・ 正課授業・課外講座における支援
- ・ サポートアワーにおける学生へのアドバイス
- ・ 自主講座・イベント企画・運営
- ・ 指導員候補に対する学習支援
- ・ ラボ運営に関わるその他の業務

現在、ラボは2名の指導員とそれを支える3名の外部指導員、さらには指導員を目指す7名の候補生で構成されています。候補生を含め全員が正課、課外を問わず指導の現場に投入されるわけですが、学生にとって指導員からのアドバイスは、教員からのそれとは違っているようです。教員から言われると、「先生から言われたことは絶対だ」と、どうしても無批判に受け身になってしまいます。一方、学生指導員からのアドバイスは、少し前までは自分たちと同じであったわけですから、自分自身のこととして直接的に胸に響きます。このため、学生は指導員との関わりのプロセスを通じ、積極的に変化しようと努力する方向へと向かいます。

実際のところ、指導を受ける学生の中には、進んで勉強会を開くといった自主性の萌芽が見られます。4月の開室から10月までの7カ月間のラボ利用者数は延べ1079名を数えました。開室当初の予想を大きく上まわることになり、学生の需要の高さ、そして何よりも学生のやる気を感じているところです。

新しい「学び」のかたちを目指して

こうしたラボの取り組みは、時代が要請する新しい学びの形の追求にほかなりません。そこで、10月14日に開催したキックオフシンポジウムでも「新しい学びのかたちを目指して」というテーマを掲げました。

基調講演をお願いした佐藤隆・都留文科大教授はかつて「学力世界一」の国として脚光を浴びたフィンランド教育への造詣が深く、「学力」という視点から日本の教育が抱える問題点を指摘している教育学者です。「わかること、学ぶこと—『深い疑問』が生み出す教育を」と題した講演では、「学力」が測っているものは何だろうか、という問いを投げかけた上で、テストのためでなく子どもたちに「なぜ」「どうして」ということを考えさせるフィンランドにおける教育、子どもたちの興味や関心に合わせて授業を組み立てるフランスの「フレネ教育」などを紹介。「『わかる』とは、目の前の事象を理解し言葉で説明できること。そのために、自分を問題と向き合う主体とすることが必要である」と結びました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、幅広い子育て論を展開する山下雅彦・東海大熊本キャンパス教授にパネリストの一人として登壇を願いました。山下教授はschool（学校）のラテン語の語源となるscola（スコラ）には「暇」という意味があることを紹介。「教員は暇人でなければならず、子どもにはゆとりが必要」と語り、詰め込み式教育からの転換の必要性を訴えました。

両先生の示唆に富んだ御意見は、はからずもラボの今後の方向性を示すものとなりました。試行錯誤を繰り返しながらのスタートではありますが、今後とも学生とともに育ち続けるラボでありたいと思います。

最後になりましたが、ラボの準備段階からキックオフシンポジウムに至るまで、物心両面にわたりご協力やご助言をいただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。これを機に、学生を主体とした新たな「学び」の形を追求し続け、その実践と成果を学内外に発信していくつもりです。

(アカデミックスキルラボ 渡邊淳子)



7月23日、8月20日にオープンキャンパスを開催しました。その主な目的は、高校生や保護者の方々に対して大学を公開し、学科毎の実習体験や在学生とのコミュニケーションを通して、将来のキャンパスライフをイメージしていただくことです。当日は、模擬実習や在学生との交流コーナーなど数多くのプログラムが実施されました。両日とも好天に恵まれ、計1,774名の方々にご参加いただきました。

また、8月27日には「チャレンジ熊保大！推薦入試対策講座」を、12月10日には「チャレンジ熊保大！一般入試対策講座」を開催しました。地元の大学予備校・壺溪塾の先生方による本学の過去問解説等を実施し、こちらも多数の皆さまが受講されました。

本学にご来学いただきました皆さまや壺溪塾の先生方に対し、心よりお礼申し上げます。

(広報課)



9月27日、本学にてリハビリテーション学科を対象に合同就職説明会を開催しました。この合同就職説明会では、各施設の採用関係者の方から、施設概要や採用計画などをご説明いただき、学生たちの就職意識を高揚させることを目的としています。当日は熊本・九州を中心に関東・関西方面を含め、74施設の採用関係の皆さまにご参加いただきました。

実習等で関わりの深い施設の先生方や本学卒業生も参加されており、和やかな雰囲気で行うことができました。参加した施設の方からは「礼儀正しく質問を多く準備されていてとても良かったです」、「学生の印象がとても良かったです」、「皆さん熱心に話を聞かれました」などの感想をいただきました。4年生はこれから就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得のいく就職活動ができることを期待しています。

ご参加いただきました各施設の皆さま、本当にありがとうございました。

(就職支援課)



医学検査学科の池田勝義 教授が、平成29年度「第36回福見秀雄賞」(公益財団法人黒住医学研究振興財団)を受賞されました。この賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域に半生を捧げ、技術の開発、向上に努力し、かつ、後進の指導育成に貢献のあった方に授与されるものです。(企画課)



N&T

保護者会

9月30日、本学にて医学検査学科3年生、理学療法学専攻2年生、生活機能療法学専攻3年生、言語聴覚学専攻2年生を対象とした保護者会を開催しました。その主たる目的は、「学生本人が長期の学外実習をより有意義なものにするため、保護者の皆さまと大学教職員が協力してサポートしていく会であること。さらに、今後の国家試験・就職活動を成功裏に導くためのスタートの日にすること」です。まずは、崎元学長による大学の概要説明に始まり、各学科・専攻に分かれての分科会、担当教員との個別面談などが行われ、活発な意見交換がなされました。当日は、医学検査学科107名、理学療法学専攻28名、生活機能療法学専攻35名、言語聴覚学専攻25名の保護者の方々にご来学いただきました。これから始まる長期実習に向けて学生の皆さまが安心して臨めるよう、保護者の方々と一緒にサポートしていきたいと思っております。

週末にも関わらず、ご参加いただきありがとうございます。 (就職支援課)



N&T

医学検査学科 臨地実習認定式

医学検査学科 講師 永田 和美

10月31日に熊本再春荘病院 臨床検査課 佐々木康雄技師長を来賓としてお迎えし、医学検査学科3年生120名が参加し臨地実習認定式が行われました。

この臨地実習認定式は臨地実習前に開講される臨地実習前教育の最終日に実施されます。臨地実習前教育では臨地実習に臨む心構え、社会人としてのマナー、臨地実習時に必要な知識の再確認のための講義や実習が行われ、その内容を理解し、臨地実習に臨む心構えができた学生が臨地実習認定式に参加します。

認定式では最初に学長から学生一人一人に認定証と「おめでとう」の言葉が贈られ、学生は「ありがとうございます」と認定証を受け取っていました。その後、学長告示、「ヒポクラテスの誓い」の宣誓、来賓の佐々木先生の訓示、医学検査学科学科長訓示と行われ、厳かな雰囲気の中、臨地実習認定式は滞りなく終了しました。



N&T

動物慰霊祭

10月18日、平成29年度動物慰霊祭を執り行いました。例年、動物慰霊碑前で挙げておりましたが、当日はあいにくの雨となり、会議室で行いました。式典には、多数の教職員・学生が参列しました。

最初に、参列者全員で黙祷を捧げた後、安部副学長が「尊い生命を捧げ犠牲となった多くの動物に対し、謹んで感謝と哀悼の念を表す」と崎元学長からの慰霊の詞を代読し、続いて学生代表が「実験・研究のために犠牲となった数多くの動物の御霊に対して、心より感謝の念を捧げる」と述べました。最後に、参列者全員で献花を行い、動物慰霊祭を終えました。(総務課)



実習体験レポート

医学検査学科



医学検査学科 3年
宮田 莉奈

臨地実習では大学で学ぶことのできない臨床の検査の流れや患者接遇など様々な体験をさせていただきました。実際の臨床現場で、迅速かつ正確に検査を行っている技師さんの姿は格好良く、感銘を受けました。どの検査室でも検査結果をただ臨床へ返すのではなく、本当にその結果が正しいのかを専門的な知識から判断されており、検査技師の重要性を感じました。さらに、チーム医療において他職種の方に検査の意義を伝えたり、検査技師の立場から意見を述べたりすることも、重要な役割だと学びました。臨地実習を通して、「点」で存在していた知識が「線」になるのを実感し、より理解を深めることができました。そして検査技師になりたいという思いが一層強くなりました。今後も臨地実習で得た学びを糧に、勉強に励みたいと思います。実習にご協力して頂いた皆さん、本当にありがとうございました。

看護学科



看護学科 3年
徳留 里奈

臨地実習では、新生児から高齢者までさまざまな疾患を持つ患者様を受け持たせていただきました。疾患理解だけでなく、それぞれの患者様の今までの生活や価値観、家族関係など多くの視点で捉え、退院を見据えたケアを行うことを学びました。また、実習を終えて、課題として知識不足があげられました。残りの学校生活で知識を身につけ、国家試験に向け勉学に励みたいと考えています。将来は、看護の対象者がその人らしく生きていけるように、寄り添う看護を提供する看護職者を目指します。最後に、私達が実習をするにあたり受け持ちを引き受けて下さった患者様、家族、お忙しい中熱心に指導をして下さった医療スタッフの皆様、先生方、励ましてくれた仲間や家族、送迎をして下さったバス運転手の方、全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

リハビリテーション学科



リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 4年
山本 海帆

臨床実習では、回復期、維持期そして小児リハビリテーションといった幅広い領域について臨床の現場で学ぶことができました。

大学で学んだ様々な検査や訓練を実際に患者様に実施してみて、机上では学ぶことのできない多くのことを学ぶことができました。検査については、声掛けの言葉やタイミング等、患者様一人ひとりの性格や障害に合わせた対応が必要であることを学びました。また、担当した患者様の訓練では機能訓練だけでなく記憶や情動に働きかける回想法を取り入れたプログラムを作成し、訓練の多様性を学ぶことができました。

実習で患者様やバイザーの先生方と出会い、様々な経験をして、自分の力不足も実感しましたが、改めて“言語聴覚士になりたい”という思いが強くなりました。実習で感じたこの思いは、現在の学びの原動力になっています。実習で学んだことを生かしながら、これからも日々勉学に励んでいきます。

助産別科



助産別科
菟場 彩実

助産学実習では、妊娠期から乳幼児期まで、多くの母子やご家族に関わらせていただきました。その関わりの中で、改めて生命誕生の素晴らしさを感じた一方で、目の前の母子の生命だけでなく、その家族の未来までも背負う覚悟の必要性を実感しました。また、対象者を検査データや教科書上からの予測のみならず、自身の五感を研ぎ澄まし、統合的な視点から捉え、適切かつ有効なケアや社会資源へとつなげていく、切れ目のない支援の重要性を学びました。しかし、それと共に助産師本来の自律した助産実践のためには、自分の専門的知識・技術やヒューマンケア・コミュニケーション能力の未熟さも痛感しました。今後、助産師として、誇りを持って活躍できるよう自己研鑽を重ねて、謙虚にひとつひとつ学んでいきたいです。

末筆ながら、受け持たせていただいた皆様、お力添えいただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

就職活動ルポ



平成29年3月卒業（医学検査学科）

狭間 翔太郎さん

北九州市職員（臨床検査技師）
北九州市立八幡病院 診療支援部
臨床検査技術課 病理検査室所属

私は現在、北九州市立八幡病院の病理検査室で臨床検査技師として働いています。病理検査では疾病の診断を行うために患者から採取した臓器・組織・細胞などを処理し調べています。

私の場合、3年次の臨地実習で就職したい病院のイメージを固めることでスムーズに就職対策に進むことが出来ました。一番力を入れたのは面接対策です。就職レポートなどを用いて様々な病院の面接での質問を調べ回答を考え、面接ノートを作り練習することで試験当日は予期せぬ質問にも自信を持って対応することが出来ました。次に専門科目の記述試験対策ですが、論述や穴埋め問題など病院によって大きく傾向が異なり、過去と似たような問題が例年出題される病院もあります。様々な病院の受験レポートを調べ上げ、分析してみると頻出している問題があることに気づきました。その結果、本番では予想していた問題もいくつか出題されました。

就職活動は思い通りに進まないことも多くあります。しかし努力の数だけ僅かでも勝率は上がりますし、その努力が本番の自信に繋がります。大変だと思いますが、皆さん全員が笑顔で卒業できるよう応援しています。



平成29年3月卒業（リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻）

前村 朋実さん

作業療法士
横浜労災病院 中央リハビリテーション部所属

私は横浜労災病院で作業療法士として働いています。急性期の病院なので、発症間もない患者さまのベッドサイドからリハビリを行うことが多く、日々学びながら業務に励んでいます。

私は、就職活動の時期になっても何をしたいのか、どんな病院にいきたいのか、はっきりわかっていませんでした。その間にも時間はどんどん過ぎていき、国家試験の勉強も本格的に始めなければいけなくなり、焦るばかりでした。そのような中で、OTの先生に「まずは学んでくるとい姿勢でもいいんじゃないかな」と言ってくれました。

そこからは、まずは医療人としての基礎である疾患の症状、リスク管理が学べる急性期の病院を選び、病院が決まってからは、就職支援センターやOTの先生にアドバイスをもらいつつ、履歴書の作成や面接の練習を行っていきました。先生方は個人個人に合ったアドバイスをくださるので、自分の良さや直す部分を改めて知ることができました。

卒業研究、就職活動、国家試験の勉強を並行して行っていくことは、とても大変だと思います。しかし、大学では多くの方が支えてくださいます。精一杯自分の道に進んでいってください。熊本大生が素敵な医療人になることを期待しています！

研究ノート



大学院 保健科学研究科
リハビリテーション領域 2年

小牧 龍二

私は現在、Alzheimer型認知症モデルラットに対する音楽の影響について研究を行っています。近年、高齢者人口の増加が進む中で認知症患者数も増加の一途を辿っており、認知症予防対策は急務とされています。しかし、未だ十分な予防対策がないのが実情です。そこで私は作業療法士としての観点から非薬物療法での効果的な予防アプローチを検討し、臨床に活かしたいと考えています。

今回焦点を当てた音楽療法は以前から幅広く臨床で用いられていますが、有効性を証明するエビデンスがまだ十分でないため、基礎研究を通してより客観的な指標を見出していくことで、臨床での作業療法や社会的貢献に繋がっていきたくと考えています。

地域連携

地域連携委員会の活動報告

地域連携委員会では(1)健康福祉関連分野で地域連携に関する活動、(2)社会連携の円滑遂行に関する活動、(3)地域団体との連携拡大活動、(4)ボランティア活動の取り組みと支援を活動内容としています。

これらの目的をふまえたうえで、本学では毎年地域ぐるみの様々なイベントに学科の特性を活かした内容で参加しています。活動の一部をご紹介します。

「第27回ふれあいフェスタ in ほくぶ」

■10月28日(土)～10月29日(日) ■会場:本学

熊本市北部の地域イベント「ふれあいフェスタ in ほくぶ」に参加しました。

本年度は、会場の北部体育館が昨年の熊本地震で被害を受けており、使用することが出来なかったため、初めて本学で開催されることとなりました。本学は、医学検査学科が体成分・骨密度・血管年齢測定、看護学科が身長体重・腹囲・血圧測定、リハビリテーション学科理学療法専攻が児童を対象にした体力測定を行いました。



「フードパルフェスタ 2017」

■11月4日(土)～11月5日(日) ■会場:熊本市食品交流会館

フードパル熊本主催のイベント「フードパルフェスタ 2017」に参加しました。

医学検査学科が体成分・骨密度・血管年齢測定を、看護学科が血圧測定を行いました。このフードパルフェスタには、毎年参加していますが、本学の地域連携活動の中で最も来場者数の多いイベントであり、今年度も1日目に238名、2日目に234名の方が本学のコーナーを訪れ、測定を受けられました。



MUSASHI会

■11月19日(日) ■会場:崇城大学

「平成29年度 市民の健康生活を考える会」

MUSASHI会(市民の健康生活を考える会)とは、大学と医療機関の連携活動として、本学と熊本機能病院、崇城大学の3機関で構成する会です(平成21年発足)。同会は「地域市民の健康増進を目指すと共に、地域交流の場の提供により、希薄となった地域コミュニティの再生に貢献する」ことを目的としています。

今年度は、「ウォーキング(インターバル速歩)&グラウンドゴルフ大会」というテーマで崇城大学にて開催されました。本学は地域市民の健康増進を目指すという本会の主旨に沿い、看護学科とリハビリテーション学科が「健康・体力測定」を行いました。



国際交流

大邱保健大学交換研修生



7月1日(土)～14日(金)に大邱保健大学交換研修生を7名受け入れました。MERS ウイルス流行や熊本地震の影響により、大邱保健大学の学生受入れは3年ぶりとなりました。今回は、大邱保健大学の学生の中に日本語と英語が流暢な学生がいた為、英語、日本語、韓国語で学生同士交流を図っていたのが印象的でした。実習、講義聴講、病院見学、日本語研修、日本文化体験やホームステイの他、今回は7月10日(月)に本学で開催された国際シンポジウムとスケジュールが重なったこともあり、そちらの聴講もしてもらいました。学術面でも韓国の学生にとって貴重な経験をしてもらうことができたのではないかと思います。9月には本学学生を交換研修生として大邱保健大学に派遣しました。交流期間は2週間と短いのですが、中にはプログラム後も連絡を取り合っている学生もいるようです。今後も引き続き交流を深めて行きたいと思います。

(国際交流委員会)



Global Student Leadership Program 体験報告



看護学科1年
林田 葵

私は8月10日から約10日間、韓国の大邱で行われたGSLPに参加しました。このプログラムでは9カ国から集まってきた仲間達と寮で共同生活をし、講義やディスカッション、異文化体験をしました。仲間と常に行動を共にする中で色々なことを感じ、考え、学びました。特に自分に自信を持つことの大切さ、日本の文化や衛生面、繊細な感受性の素晴らしさを感じました。頭や知識では分かっても実際に自分で体験する事の大切さを日々痛感しました。新たな学びや発見がある日々は本当に刺激的で充実したものだったと思います。これからこの経験を糧にし、さらに多くのことに挑戦していきたいです。

最後に、このような機会に参加できる恵まれた環境に感謝し、私達をサポートして下さった全ての方々にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



大邱保健大学との交換研修



医学検査学科3年
宮田 莉奈

私は9月8日から2週間、韓国の大邱保健大学へ研修に行かせていただきました。大学の授業体験や病院見学、市内観光など様々な活動を通して、日本と韓国の相違点や良い点を知ることができました。韓国の学生たちのフレンドリーで積極性のある姿に刺激を受け、私も見習わなければならないと感じました。この2週間、貴重な体験ばかりで毎日が充実していました。私は文化を学ぶ楽しさ、意思疎通ができる喜びを学びました。このプログラムに参加して良かったと心から思います。サポートしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。



コンケン大学との交換研修



看護学科1年
野田 京佳

私はタイのコンケン大学に約2週間の短期留学に行かせていただきました。コンケン大学はタイの東北部に位置しており、自然豊かな環境で学ぶことができました。平日は主に公立、私立病院に見学に行き、休日はコンケン大学の学生がお寺やショッピングに連れて行って、楽しい時間を過ごすことができました。

タイの人はみんな親切で、感謝溢れる2週間でした。



杏祭を終えて



リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻3年
杏祭実行委員長

高田敬史郎

杏祭までを振り返ると、杏祭（10月21日）の半年前に学友会会長に杏祭実行委員長の役目を任せられました。当時は実行委員長の仕事内容も把握しきれておらず無事に開催できるのかとても不安がありました。そんな中、阿蘇研修にてテーマを決めることになりました。

今年のテーマは「叫べ!」でした。杏祭のテーマを決めるにあたって、私は以前からも感じていた学内での盛り上がりの低さに注目し学友会だけでなく大学全体で大声を出して杏祭を盛り上げたいという気持ちをこめて、杏祭実行委員会でも考えました。

杏祭までには企画・模擬店・ゲスト・文化展・花火・広報それぞれでユニット会議を行ったり、各ユニット長との会議を重ね、入念に準備を進めていきました。また今年は杏祭とは別に4大学(熊本大学、九州ルーテル学院大学、熊本県立大学)の学園祭担当者の交流も行うこともできました。この交流を通して学園祭の運営のポイントなど多くのことを学び杏祭に生かすことができました。そして準備・前夜祭・本祭・片づけと、大学側の多数のご指導や実行委員の努力、西里地域の皆さんの協力、運営のサポートをしてくださった業者の方々など多くの人の協力により、杏祭を成功させることができました。本当にありがとうございました。

CIRCLE INFORMATION

ボランティアクラブ Rideto

私たちはボランティアを通して、人と人を繋ぎ笑顔の和を広げることを目標に活動しています。主な活動は小規模多機能ホームたいじゅさんや五丁こども園さんとの世代間の交流、認知症について正しい知識を持ち認知症の方と関わることによってその知識を身につけて広める活動、生産者直売のオーガニックマルシェのお手伝いです。世代間や他大学との交流ができ、社会性が身につく上に普段体験できないことを体験することができます。何か始めたい!と思っている方、私たちと一緒に活動しませんか?



代表 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
2年 松尾 真季

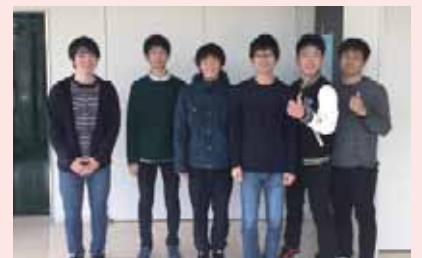
部員 127名

活動場所 主に学外

※ 12月20日「国際ソロプチミスト熊本さくら学生ボランティア賞」受賞。

陸上部

私たち陸上部は、毎週木曜日に楽しく走っています!主な活動場所は学内グラウンドや大学周辺のロードです。部員の多くは長距離専門で、毎年「つわぶきハーフマラソン」や「全国スイーツマラソン」などに参加しています。陸上を通して様々な学科・学年と交流し、より良い大学生活を築くことができ、自身の健康維持、体力増強にもなります。陸上経験のない方も、大歓迎です。私達と一緒に楽しく走りませんか?



代表 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 2年
古川 貴教

部員 25名

活動場所 グラウンドや学校周辺のロード



研究室紹介

医学検査学科 教授 杉内 博幸

私は、長年、リポ蛋白質コレステロールのホモジニアス法¹⁾の開発やその臨床応用に取り組んできました。血液中のリポ蛋白質は、比重の違いにより、カイロミクロン、超低比重リポ蛋白質 (VLDL)、低比重リポ蛋白質 (LDL)、中間比重リポ蛋白質 (IDL)、高比重リポ蛋白質 (HDL) に分別されます。これらのリポ蛋白質は、コレステロール、トリグリセライド、アポ蛋白、リン脂質で構成されています。この中で、LDL はコレステロールの多くを末梢細胞まで運び、HDL は細胞から不要になったコレステロールを引き抜き肝臓に逆転送します。従って、LDL の増加や HDL の低下では、心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患の発症リスクが大きくなります。このため、血中の HDL コレステロー

ル (HDL-C) や LDL コレステロール (LDL-C) の濃度を測定することは動脈硬化性疾患の予防や診断・治療には不可欠です。しかし、長い間、これらを日常検査で測定する方法はありませんでした。そこで、私は、1990 年頃から HDL-C ホモジニアス法¹⁾の開発に取り組み、1995 年に、 α -硫酸化シクロデキストリンとポリエチレングリコール (PEG) 修飾酵素を用いたホモジニアス法を世界最初に開発し、1998 年には、界面活性剤を用いた LDL-C ホモジニアス法を開発しました。これらのホジニアス法は簡易であるため国内外の検査室で使用されています。現在の研究では、これまでの研究を一歩進めて、HDL 亜分画²⁾ コレステロールのホモジニアス法¹⁾の開発や臨床的有用性に関する研究に取り組んでいます。

注 1) ホモジニアス法というのは、測定段階で、遠心操作などの前処理が不要で、検体と試薬とを混合するだけで簡単 (10 分以内) に測定できる方法を言います。

注 2) HDL は、蛋白組成、比重や粒子サイズなどの違いから、HDL2 と HDL3 の亜分画に分類されます。

～新任教職員紹介 ようこそ、熊本保健科学大学へ～

医学検査学科



川口 辰哉
(かわぐち たつや)
教授

1月1日付で医学検査学科に着任した川口でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。前任の熊本大学医学部における25年間の教員生活で培ったものを糧に、学生教育を通じて地域医療を支える優れた医療人の育成および学園の発展に微力ながら尽力する所存でございます。また研究面では、血液、免疫、感染症・感染制御をキーワードとしておりますので、ご興味のある方は、遠慮なくお声を掛けていただければ幸いです。

医学検査学科



西村 和浩
(にしむら かずたか)
講師
学務部
情報システム室
兼務

9月1日付で医学検査学科に着任いたしました西村 和浩と申します。併せて、10月より情報システム室も兼務させていただきます。前職、大病院での病院情報システムの運用をはじめ、これまで様々な分野における課題解決のための情報システムの開発を、民間企業にて行ってまいりました。その経験を活かし、本学の発展に貢献して参りたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

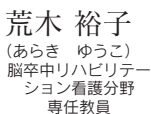
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻



永友 真紀
(ながとも まき)
講師

7月1日付で言語聴覚学専攻に着任いたしました永友です。これまでは主に成人の失語症や高次脳機能障害の臨床に携わって参りました。また、直近の2年間は重症心身障害児の訪問と通園にも関わらせて頂きました。多くの患者さんと出会う中で、私自身が感じた言語聴覚療法の奥深さを学生の皆さんにお伝えできればと思っております。教員という立場は初めての経験で慣れないことが多々ありますが、どうぞよろしくお願い致します。

キャリア教育研修センター 認定看護師教育課程



荒木 裕子
(あらかき ゆうこ)
脳卒中リハビリテーション看護分野
専任教員

10月より認定看護師教育課程、脳卒中分野の専任教員としてお世話になっております。済生会熊本病院より半年間の出向で参りました。私自身、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として活動させていただいておりますので、その経験を活かし、研修生と共に学びを深め、支援していきたいと思っております。半年間の短い期間ですが、よろしくお願い致します。

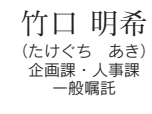
法人事務局・大学事務局



米村 英之
(よねむら ひでゆき)
経営企画部長付
専任職員

本年1月より経営企画部の事務を担当しています。教育関係の勤務が初めてということもあり、医療人を目指す志高い若者達に囲まれての勤務に、いまだ高揚した気持ちがおさまりません。彼等と同じく、本学の一層の発展を目指して日々奮闘しておられる事務職員の方々の一員となれたことも大きな喜びです。私もこれまでの経験を踏まえながら、その一翼を担えるよう努めてまいります。よろしくお願い致します。

法人事務局・大学事務局



竹口 明希
(たけぐち あき)
企画課・人事課
一般嘱託

9月1日より企画課・人事課で勤務させていただいております竹口です。慣れないことやわからないことも多く皆様にご迷惑をお掛けしているかと思いますが、教えていただいたことを一つひとつしっかりと覚えていき、事務の一員としてお役に立てるよう精一杯頑張りたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

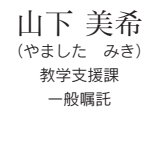
法人事務局・大学事務局



西山 佳那
(にしやま かな)
教学支援課
一般嘱託

11月1日より一般嘱託職員として教学支援課 (理学療法学専攻・生活機能療法学専攻事務) で勤務をさせて頂いております。大学・教育現場での勤務は初めてですので、まだ不慣れなことも多く、皆様には何かとご迷惑をお掛けしてしまうこともあるかと思っております。一日でも早く仕事内容と職場環境に慣れ、大学の一員となれるよう精一杯尽力して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

法人事務局・大学事務局



山下 美希
(やました みき)
教学支援課
一般嘱託

12月から教学支援課で一般嘱託職員として勤務することになりました。就職氷河期と呼ばれる時期に大学を卒業し、これまで他大学や官公庁、民間企業等さまざまな事業所で主に事務職として勤務してきました。不慣れなことも多く、勉強不足な面もあり、皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思っておりますが、初心を忘れず、何事にも前向きに真摯に取り組む所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

法人事務局・大学事務局



酒井 円香
(さかい まどか)
教学支援課
一般嘱託

本年1月より、教学支援課 医学検査学科の一般嘱託職員として、勤務させていただいております。これまでの医師事務作業補助者の経験から、医師・看護師・療法士・検査技師・ケアマネジャーさん達との連携や、実際の現場のことを伝え、少しでも支援できたらと思っています。比較的、皆さんと年齢が近いはずなので、気軽に声をかけてください。学生の皆さんと共に学びながら、有意義な学生生活を送れるように、全力でサポートしていきます。未熟者ですが、ご指導ご鞭撻のほど、お願いいたします。



Library

- 図書館学生選書ツアー第2回(6/24)、第3回(10/7)を実施しました。書店に集合し、図書館に置いてほしい図書を各自選びました。参加者計10人、選書238冊。参加者からは「医療系専門書のほか、いろいろな本が選べて楽しい」「また参加したい」との声。館内入口に選書者のコメント付きで展示しています。好評につき来年度も開催予定です。
- 図書館入口中央のコーナーでは、「学修支援」「生活支援」「放送大学テキスト」「新着図書」「教員推薦図書」など、随時展示しています。貸出も可能です。28年度から保護者の皆様への貸出も開始しました。どうぞご利用ください。
- 図書館専用LINEを始めました。学内者を対象とし、図書館やラーニング commons の情報を発信しています。
- 図書館報2017夏号を作成しました。解剖生理3D映像資料の紹介、学生アンケート結果報告、第2回選書ツアー、お知らせ等掲載しています。図書館ホームページ <http://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>「図書館について」、または、館内にて閲覧できます。どうぞご覧ください。

図書のご紹介 図書館蔵書の中から



『Visible Body』解剖生理関連3D映像資料

『Human Anatomy Atlas』は、ヒト全体の解剖学アトラス、横断面、MRI スキャンを含む3D人体模型。『Anatomy and Physiology』は、アニメによる生理学と解剖学的機能の解説。小テストやチェックリストもあり。図書館ホームページから利用できます。(学内者限定)



いつも心にユーモアを

共通教育センター 教授 東谷 孝一

「病は気から」ということわざがあるように、人の心とからだは何らかかかわりを持っているのでしょう。実際、私たちは悩みや心配事がかかえているときには、何となくからだも重く感じることがありますし、反対に、心が明朗で和やかであれば、体調も整うといったこともあるのかもしれません。

アメリカの有名なジャーナリストのノーマン・カズンズは、自身が重症の膠原病にかかり、医師から回復の可能性は500分の1と宣告されましたが、その宣告にも負けず、希望や信頼などの積極的な情緒を抱くことが治療的価値をもつと信じて、果敢に闘病し、死の淵から生還したのでした(『笑いと治療力』岩波現代文庫)。そして、カズンズはそのような積極的な情緒が笑いやユーモアと深く結びついていると考えたのでした。彼は、笑いとビタミンCを武器に膠原病と闘ったのです。カズンズは科学を否定する精神論を提唱しているのではないでしょう。彼

が私たちに注意を喚起しているのは、人間が生きることにとっての、よき生・価値ある生を生きようとする意欲の大切さであり、その生への意欲は喜び、笑い、ユーモアの心を伴うとき、柔軟で健やかなものとして発現するというところにあります。

ユーモアには不安を和らげ、緊張を解きほぐす力があると言われています。私は大学では哲学や倫理学、生命倫理学などを担当させていただいていますが、これらの名前から思い浮かぶイメージは、難解で、堅苦しく、鬱陶しささえ漂うような授業です。しかし、学生のみなさんにとって、授業は楽しいものであってほしい。これは私の切なる望みです。そこで、できる限りユーモアの心を忘れないで講義を進めていきたいと常々考えています。ほんの小さなことでも、ユーモアがささう笑いが生まれると、学生のみなさんとの距離が何か一挙に縮まった思いがするのです(これはしかし大いなる誤解かもしれません)。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

編集後記

昨年発行のぎんきょう第35号でお知らせした、新アリーナがもうすぐ完成します。残念ながら今回の号に詳細をご紹介できませんでしたが、次の号ではいろいろお知らせできるとおもいます。お楽しみに。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において平成26年度大学機関別認証評価を受審し、平成27年3月10日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。

GINKYO GAKUEN TSUSHIN
“GINKYO” No.37

●学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学

〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地
TEL096-275-2111 FAX096-245-3126

<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

●発行日/平成30年1月31日